

よしかわ通信



発行

高萩市議会議員

よし かわ どう りゅう
吉川道隆

高萩市安良川686

TEL 0293-24-0833

FAX 0293-22-3340

ホームページ

<http://www.douryu.net>

E-mail

info@douryu.net



新緑の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。新型コロナウイルスの感染拡大防止のための、休校措置、休業要請、外出自粛が続いております。世界的にも例のない、重大な危機的状況になっており、4月16日には全国に緊急事態宣言が出されました。高萩市でも、いつどうなるか、全くわかりません。感染拡大地域からの観光客、交流人口の少なさがこういったところで、安心材料になるとは、何とも皮肉なものです。

感染拡大地域の医療従事者の方、現場で戦っている方に対して私たちは直接的なお手伝いはできませんが、誰にでもできる最大限の協力は、何よりも一人ひとりが感染しないようにすること、自粛疲れなど言って、用もないのに外出したりしないことだと思えます。ありきたりかもしれませんが、みなで協力して、この難局を乗り越えられるよう、「今は我慢!」しましょう。

高萩中央陸橋から国道6号交差点の信号について

質問 ハローワークの方から消防署方面に向かう時、右折レーンはあるが、右折信号がない。前日の答弁で右折信号により6号国道の流れを妨げることになるのでできない、対向車側に右折レーンがないからできない、との回答だったが、右折信号が出る時間をさらに伸ばすのではなく、今青になっている時間を少し削って、同じ時間の中で、右折だけの時間を設ければいい。私が知っているところで片方にしか右折信号がないところもある。警察署のさきの陸橋に上がる信号は、T字の交差点だが、下りで右折信号があるが、上りはない。どうなのか？



総務部長答弁 十字路の交差点については両側、反対車線のほうからも右折信号機をつける必要がある。現在の青信号の一部分を使って右折信号機を設置してはどうかということについては、結局、直進車あるいは左折車があるので、渋滞の緩和はなかなか難しいと考えている。今後も引き続き警察のほうに要望していきたい。

質問 警察に対し、口頭ではなく、要望書を提出していくべきである。提出してくれるのか？

市長答弁 改めて警察署のほうに要望をまず伝えて、そして要望書も出すような形をとればとるが、警察署のほうで前からこの点については、要望書を出されてもなかなか対応できないと言われていた。実際のところ要望書は出していない。

現状 この質問の後、12月26日付で市から警察に要望書を提出し、右折信号はつけることはできなかったが、令和2年1月23日より、午後5時30分から6時30分まで、渋滞が発生する時間帯のみ、ハローワーク側から6号国道に出る青信号の点灯時間を5秒長く点灯するようになった。これにより、従来よりは、渋滞が緩和されるだろうと考えている。

スカウトフィールドの利用について

質 問 中戸川にある日本ボーイスカウト所有の高萩スカウトフィールド、管理棟や浴室、トイレなどもしっかり整備されている、非常に広くて素晴らしいキャンプ場。以前、行ったときは道が通りにくかったり、案内看板が不親切だったりして、一般質問で指摘したが、今回、議案第19号中戸川辺地総合整備計画で、461号線からスカウトフィールドまでの3キロの道路を、5年間で幅を広げてバスも通れるようになる。何年もかけて道路を整備し、広大な素晴らしい施設があるのだから、少しでも多くの方に利用していただけるよう工夫していただきたい。大和ハウスより譲り受けたのが※271ヘクタールで今利用しているのは2ヘクタールだけなので残りの広い面積を有効に使った方がいい。昨年より教育活動を行う一般団体も利用できるようになってきているが、今までの利用状況はどうだったのか？どういった団体がどれくらいの日数利用されたのか？

※ 271ヘクタールとは、東京ドーム約57個分の広さ

教育部長答弁 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟からの資料によると、グラウンドをオープンした平成29年度には、50日の開場で1万1,883人の利用があり、うち市関連のものは小学校児童を対象とした自然とあそぼうデイキャンプと市議会の皆様の視察で、計9件464人。平成30年度には、95日の開場で2,579人の利用があり、うち市関連のものは、しぜんとあそぼうデイキャンプや高萩ウォーキングクラブの施設見学など8件、380人。今年度は3月3日現在、125日の開場で3,669人の利用があり、うち市関連のものは、大和の森口笛コンサートや親子キャンプなど11件、753人。市関連利用については、ほかに市スポーツ少年団加盟団体によるもの、高萩市地域おこし協力隊によるものなどがある。

質 問 旅行に行きたい、キャンプをしたい、子どもと遊びに行きたいという場合、インターネットで検索することが多い。しかし、キャンプ場の検索サイトに、スカウトフィールドは登録されていない。全国の施設掲載数が約4,000件あるキャンプ場検索・予約サイトで検索すると高萩のキャンプ場が出てくるのは高萩ユーフールド(君田小・中学校跡地につくられたオートキャンプ場)、花貫ふるさと公園、小滝沢キャンプ場のこの3か所だけ。スカウトフィールド、はぎビレッジ、けやき平も載っていない。そういったサイトに登録することができないのかどうか？

スカウトフィールドはボーイスカウトの手前難しいが、高萩市からボーイスカウトに働きかけをしてもいいかと思うがどうか？または、子供向けの体験事業を企画する団体がある。幼児から中学生を対象とし、キャンプ、自然体験、工場見学、スキーキャンプなど、独自のツアーを企画、実施、年間350ツアー以上実施している。そういう団体に施設を利用してもらえるように売り込みすることはできないか？また、はぎビレッジは高萩主体でやっていることなので、こちらと同じくサイト登録するべきだと思うがどうか？

市長答弁 ボーイスカウト日本連盟については民間の団体であるので、なかなか高萩市として自由に紹介することはできなかったが、今年に入って、ボーイスカウトの役員の方との話の中で、271ヘクタールの土地を、観光的にどんどんフルに使っていただきたい。そして、高萩市の核となっていきたいといわれた。PRについては、ネット、SNS等に入り込めるような対策を日本ボーイスカウト連盟のほうと打ち合わせ、協議をしていきたいと思っている。



企画部長答弁 はぎビレッジの委託している事業者は、インターネット上のキャンプというか、グランピングとかアクティビティの関心の自前のものは載せてあるが、その他のサイトに載っていないということであれば、今後、載せられるかどうかについても検討していきたい。

質 問 せっかくの広い広場ですから、子供たちが思い切り遊べる複合の遊具、高齢者もトライできる健康遊具などを置いたり、**安心・安全に遊べるアスレチックコースをつくってあげれば**、よりたくさんの方々に楽しんでいただける。山の部分が広いので、せっかくつくるのならテレビ番組で、以前サスケという本格的なアスレチックをやった番組があるが、あのようなアスレチックコースをつくるのもいいと思う。千葉県野田市の清水公園は、20ヘクタールの敷地にフィールドアスレチック、キャンプ場、ポニー牧場、その他いろいろな施設があって、特にアスレチックは水上コース、冒険コース、チャレンジコース、合わせて100ポイント、大きさは国内最大級。

スカウトフィールドは、まだまだ使われていない場所が広く残っているから、その広さを使って、ほかにないようなスケールの大きいアスレチックコースをつくってはどうか？ボーイスカウトの活動として、アスレチックコースに行く団もあるから、全国各地からボーイスカウトの団体が利用していただけるなら、さらによい。茨城県と市と共同で出資できたら、お互いに負担の少なくなるようになると思うが、どうか？

市長答弁 日本ボーイスカウト連盟の方とお話したときに、何かその呼び込むような、象徴できるようなものがないか、ちょっと市長のほうでも考えていただきたいということもあり、宿題を課された。そういった中で、ありがちなものではなく、もっとスケールの大きい、子供たちが喜ぶようなことも考えなければならないので、今度お会いしたときに提案しようかと考えている。本市でも、職員から利用促進につながる案を募ったところ、天体観測とか宿泊型の婚活イベントとか、トレイルランなどのスポーツ大会の実施とか、そういったトライアルバイクのコースの設置などのアイデアが寄せられた。私は個人としては、古代を想像できるような森に恐竜を発見できるような遊び場もつくるのもいいと思っている。これらをボーイスカウト日本連盟、お示しする方向で調整している。



スカウトホール（屋根付き集会場）

質 問 個人の家族連れの利用もできるようにしたほうがいい。今はソロキャンプ、1人でキャンプするのも流行っている。ネットで「見て行ってみたら、鎖が張られていて入れなかった。一般開放していれば、ぜひ利用してみたい。」と書き込みがあった。私も何度か行ってみたら、いつも鎖になっている。土日祝日、季節もあるかもしれないが、ある程度は一般の方が利用できるようにしていただきたいと思う。そういう働きかけは考えていないのか？

市長答弁 高萩スカウトフィールドは自然体験活動や集団宿泊研修を目的とした教育活動計画を持つ団体やグループを利用対象者としている施設。利用に当たり、事前に申し込みが必要であり、相談の上、利用が決定される。下見についても、下見希望日の前月10日までの事前連絡が必要。事前申し込みがあれば、曜日に関係なく利用できる。当該施設は広大な敷地を有しており、敷地内の事故など管理上の問題が生じる恐れがあることから、このようなことになっており、対象者以外の利用は、難しいらしい。市としては、それを踏まえ、申し込み方法等、もっと柔軟な対応が可能か、円滑な利活用のあり方について、担当理事の方と協議させていただきたいと考えている。

提 案 遊具などこれから投資を考えるならば、もっと自由に使えるように、祝日とか土日は人を置くとか、市の持ち出しになってしまうが、あけるときだけは人を派遣するとか、検討すべきだと考える。

要はこのスカウトフィールドを始め、小山ダムのはぎビレッジ、君田のユーフールド、花貫の各施設全てを絡めて高萩の観光業として発展できればいいと考えている。高萩市の自然の魅力を多くの方々に知っていただいて、訪れていただきたい。

また、ボーイスカウトの活動の理解や興味を持ってもらえるのではないかと。ボーイスカウトはこんなにすばらしいと、知らなかった方がボーイスカウトに対する見方が変わるんじゃないかと。一石二鳥だと思う。ぜひそこを連盟の方々と、よくもう少し柔軟な対応をしていきたいと思います。



トイレ棟・シャワー棟

令和2年度予算 新規および拡充事業のうち 吉川の取り組み

○【新規】ヤングアメリカンズ派遣事業

小学校における外国語化の導入に合わせ、市内奨学生を福島県で行われるヤングアメリカンズのプログラムに派遣する。英語への興味関心、基礎的な英語力、コミュニケーション能力等の向上を目指す。

・派遣期間 3日間(10月中旬予定) 人数 10人予定(小5・6年) 派遣場所 福島県いわき市

平成29年3月議会 一般質問において、「国際交流の推進」の一環として「ヤングアメリカンズのプログラムを高萩で開催、それが無理なら市内の子どもたちをその事業に参加させてはどうかと提案した。

○【拡充】高萩アウトドアフィールド事業

高萩アウトドアフィールド「はぎビレッジ」をフィールドにダムや河川等の自然資源を活用したアウトドアアクティビティの体験事業を実施することにより、交流人口を増やし、市内外から認知される高萩アウトドアフィールドを構築する。

・気球体験実施 ・グランピングテント増設、ドッグラン整備 ・P R用看板等設置
・「はぎビレッジ」に浄化槽や洗い場を設置

令和1年9月議会 一般質問において「たかはぎの観光振興」体験型観光として、茨城県にはまだどこにもない、熱気球体験をやってはどうかと提案した。気球に乗って、空から地上を見ることができる雄大な景色。海も山もある高萩にはいい。気球に乗ってどこかに行くのではなく、ふわりと浮いた位置で景色を楽しむ。

○【新規】お屋敷通り・結いの道街灯改修工事(L E Dに交換)

道路の街灯を29基、L E D球に交換する。

令和1年12月議会 お屋敷通りの街灯は、経費削減のために、午後12時になると消灯されていた。近隣住民からは防犯のために消灯しないで朝までつけてほしいと要望があった。一般質問において経費削減というなら、街路灯をL E Dに変えて、一晩中つけておくようにしたほうがよいと提案した。

○【拡充】市街地街路灯整備(駅前通り)

商店街街路灯のL E D化を促進し、C O 2の排出量及び光熱費の削減と夜間における通行の安全を図る。
市街地街路灯のL E D交換 1灯あたり5万円以内2/3補助

令和1年6月議会 駅前通りの街路灯の電気料が、商店街の会員減少と電気料金値上げによって支払いが困難になってきており、支払いが厳しいと街路灯の半分を消灯することになるから、何とかしてほしいという要望書が市に出された。そこで、市の補助により街路灯のL E D化することで、安くなった電気代を支払うことが出来るように提案した。

○【拡充】地域コミュニティ活性化事業

高萩市地域コミュニティモデル地区内の調整役を担う兼任の集落支援員を設置するとともに、より広範囲なエリアのコミュニティ活動を推進するため、そのけん引役となる専任の集落支援員を設置する。集落支援員にかかる経費は、特別交付税措置がある。

平成27年12月議会 従来、自治会や常会、子ども会といった形で受け継がれてきた地域コミュニティは全国的な状況と同様、希薄になってきている。しかし、少子高齢化、核家族化に伴う子育て支援、高齢者の一人暮らしを支える、災害時の避難行動においても地域コミュニティをしっかりとしておくことが、重要である。地域コミュニティの活性化のために、総務省から提案されている集落支援員制度を活用すべきである。専任の集落支援員には一人あたり年間で350万円を上限に、自治会長などとの兼任の場合、一人あたり年間40万円を上限に特別交付税として国から補助される。こういった制度を最大限利用して、集落のために活動して下さる方を応援し、高萩市としての地域コミュニティを確立すべきであると提案していた。

○市道舗装改良事業

市内14カ所の市道において舗装が改良されることになった。そのうち、大和町、小豆畑薬局付近から市役所入り口交差点付近にかけては特に駅に向かう利用者も多く、舗装を直してほしいという要望が多かったので、機会があるたびに何度も市に要望していた。今年是小豆畑薬局から福田豊店付近までを直し、引き続き交差点付近までを直していく。